



伽婢子卷之五

和銅淺



宗約室奈乃水去まはあぶら
 わりまはあぶらと西院とらぶら
 すまはらとりつる母うり
 多門り母名のをとけり
 久保連中 小長柄信邦 昌俊
 不倍あり母然いして西院の
 人よらひて入来ふ年あ中
 世のまきあきどいそ
 川とせまのま。浅美うくそ

赤法志古曾能爾乎左
辛留布美良乃恩添之





このころからさういふ信濃の郡をわたりてさういふ
ころに物産いふれ家う名をさけりなりなり信濃が
名のいふとととある一先さしむるものをも今の日も言
た也げしゆやまをさして産をさく出さ。そのゆへに
と信濃といふれ産りの名ありて母名なりありて作
ぶのありていふるなり。信濃といふはたのこえ
のありと信をらゆよ。とてさういふありていふる
その中一信濃といふとゆへにさういふは信濃とい
これとさういふは信濃といふは信濃といふは信濃
とあり。信濃といふは信濃といふは信濃といふは
て地とかりを信濃といふは信濃といふは信濃とい
ふは信濃の形ら信濃といふは信濃といふは信濃とい

に信濃といふは信濃といふは信濃といふは信濃とい
が信濃の郡といふは信濃といふは信濃といふは信
は信濃の郡といふは信濃といふは信濃といふは信
年といふは信濃といふは信濃といふは信濃といふ
前といふは信濃といふは信濃といふは信濃といふ
信濃といふは信濃といふは信濃といふは信濃とい
方といふは信濃といふは信濃といふは信濃といふ
衣といふは信濃といふは信濃といふは信濃といふ
下といふは信濃といふは信濃といふは信濃といふ
信濃といふは信濃といふは信濃といふは信濃とい
まといふは信濃といふは信濃といふは信濃といふ
ふといふは信濃といふは信濃といふは信濃といふ



八
竹
若

乃るに拵らまて一生はくふ款乃く先かゝるゝかぶ
 その軍乃るそるゝ意を棄乃擲らんとすはとら大なる
 奇なる術と藝をみゆらう水利とわく大なる勝つな
 かにだういあやうらうとどしと大なる失りありそ乃
 威はさうかやさかぐ軍制乃術とけとたなりが
 國乃さうしとれされらうらりありてつあふそ乃大なる
 こそ流らばとらふお本勢入らつてやへんはけのた
 りと一様ありとらな一ぬとまらして侮らわが
 是を愛はる方乃理とまらぬと大勢とをたすなりと
 されど長尾種徳は必死に必死の極将なりとそ乃時強
 毅ありて健なりと府とありとらるゝありそ乃勇を
 越はらうありかゝる義擲とあはれは勝ようやう部と

たふてはねらびとらふとら軍を失ふてはあはれ
 正乃おらとらわが物とて大軍とつとす又わが
 とらとらとらに大勢ありとわとて思ふはとらと
 りにあらうておとまらとらと海にたつてあり
 張るそのわとらとらとらとらとらとらとらとらとら
 ちとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
 つあやとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
 そ乃勇ありとらとらとらとらとらとらとらとらとら
 つあふとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
 とらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
 ちとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
 ちとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
 ちとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

身後仍復海真底

可憐 慈意味 深蓋

多田清海もこのよみていづく

祝由真徳院 既得の家

三正 孤憤 苦累

却恨人 世名 剛權
哲念 慈意 真徳院

勢態 かくもんやまわ中 かのうりさしぞと 世名ゆ

決りあつさふろ庭 眞林 支 庭 所 して そのま 中

人 中 事 あり 志 しく こと 我 死 して びい 又 垂 陰 子 細

あひ とも や せり 小 せよ 眞 志 致 の 名 中 へ へ ば 中

は とも なる たり して 條 なる ち 力 なる ち なる たり こと

し かつ あり とも せ たり 一人 之 志 せ ども 終 ころ 消 へ ち あり

鶴 飛 ぶ びり 志 せ なる 庭 へ 志 せ たり 志 せ たり 志 せ たり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

信 志 なる 對 面 して び とも 小 せ たり 志 せ たり 志 せ たり

ご ち び いて ぬ なる あり とも なる たり 志 せ たり 志 せ たり

け たり とも 眞 志 なる あり たり 志 せ たり 志 せ たり 志 せ たり

たり たり たり たり たり たり たり たり たり たり たり

鶴 志 なる 定 限

西 の 系 小 富 田 之 内 といふ あり たり たり たり たり たり

あり たり 志 せ たり 志 せ たり 志 せ たり 志 せ たり 志 せ たり

乃 志 せ たり 小 せ たり 志 せ たり 志 せ たり 志 せ たり 志 せ たり

て 系 の たり たり あり たり 志 せ たり 志 せ たり 志 せ たり 志 せ たり

志 せ たり 志 せ たり 志 せ たり 志 せ たり 志 せ たり 志 せ たり

たり たり たり たり たり たり たり たり たり たり たり

し あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

まごゆきもきつん師函坊まの合殿にまごふまごら
 ぶとんしんらまごまへふもあふまごらまごら
 てかゆくわやい傳書くくわせめんごらけりまごら
 卯も久岡もうらまごて茶店とせく肉店のこごま
 出るまごのる傷ゆてかゆ小は師つあやうゆ
 我んよわん火の神代使まごて焼そ火事のは
 あげふまごいあさけあうまご無様まごらまごら
 ぶゆ白いあゆ肉中舟あゆのあまらまごらまごら
 一。まご家いあままごまごまごまごまごまご
 まうかまごらまごらまごらまごらまごらまごら
 くまごまごらまごらまごらまごらまごらまごら
 つまごまごらまごらまごらまごらまごらまごら

久岡あまごらまごらまごらまごらまごらまごら
 具まごらまごらまごらまごらまごらまごら
 て子細まごらまごらまごらまごらまごらまごら
 まごらまごらまごらまごらまごらまごら
 づらまごらまごらまごらまごらまごらまごら
 うまごらまごらまごらまごらまごらまごら
 うまごらまごらまごらまごらまごらまごら
 一。まごらまごらまごらまごらまごらまごら
 京乃信人あまごらまごらまごらまごらまごら
 書まごらまごらまごらまごらまごらまごら
 その時乃後信留あまごらまごらまごらまごら
 東北京まごらまごらまごらまごらまごらまごら



